

おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2020年4月)



せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで

「こんなことを悩んでいます」シリーズ③



「一人遊びはまだ難しいですか?」

家にいると、子どもは一緒に遊んでほしくて、「ママママ〜」とよく呼びますよね。 ひとりで遊んでくれたら用事や仕事ができるのに・・・とつい思います。今回は「4 歳児だとまだ一人遊びはむずかしいですか?」というご質問をいただきました。

4歳児は友達とかかわりながら遊びたい時期。友達と関わりながら、遊びを面白くしていく姿がよく見られます。その分、ぶつかり合いが一番多い学年でもあります。 気持ちがぶつかり合ったり、一緒に盛り上がったりしながらうまく遊べるようになっていくので、遊ぶときにママを呼ぶのは、友達の代わりをしてほしいからなのかもしれません。4歳児としてちゃんと育っていますね。

先日、吹き抜けのひじりんの家の扉の前で、畑中なつみ先生とホームクラスの子どもたちが素敵な会話をしているのが聞こえてきました。「ここはだれのお家だろう」と子どもが言い始めました。なつみ先生が扉をコンコンと叩いて「何かガサゴソ聞こえる。」と言うと「ほんとだ、ひじりんが住んでいる音がする」ということになったようです。「どうやったら開くんだろうね」というと、「もしかしたら秘密の鍵があるかもしれない」と子どもたち。それも「ひじりんがすきなチューリップの花の中に

あるかもしれない」ということで、鍵を探しに出かけました。園庭や裏庭に咲いているたくさんのチューリップの花の中をひとつひとつのぞいていたり、「花びらを合わせると鍵になるかもしれない」と落ちている花びらも集めて、においをかいだり、いろんな色やいろんな感触の花びらを集めて満足そう。鍵は見つからなかったけれども、その時間を楽しく共有できたらそれで子どもは満足のようです。「鍵が見つからなかった」と怒ったりもしません。それより、「チューリップっていろんな色がある。」とか「花の中は不思議な模様」と、他の花の作りとの違いに気付いたり、ファンタジーで広がった遊びが豊かな経験に変わっていく、素敵なーコマでした。

子どもには、見えないものが見えるので(って言ったらなんか怖いけど)、ファンタジーの世界に入り込むのが得意ですよね。大人よりイメージ豊かに広げてくれます。それに大人も一緒に乗っかって、ファンタジーの世界を楽しむのもいいですね。

遊びに入り込むと一人で集中して遊びます。そんな時は声をかけずにそうっと見 守るだけでいいと思います。

お悩みや迷いがある方は遠慮なく下記のアドレスまで~。

相談だけではなくて「こんなことして楽しんでいます」といった提案もお待ちしていま~す。

子育てに関するお悩みがありましたら、下記アドレスまでどうぞ。 (必ずクラスとお名前を書いてくださいね。)

<u>kaede@hijiri.ed.jp</u>





















